

小学校での講演の経験～キャリア教育と命の教育

中田 託郎 矢口 有乃¹⁾

静岡赤十字病院 救命救急センター・救急科

1) 東京女子医科大学 救急医学

要旨：静岡市の小学校では総合学習の一環として高学年でキャリア教育が行われている。また、道徳の授業では命の教育が行われており、助産師などが講演を行っている。今回、4校の小学校において、救急医としての経験をキャリア教育および命の教育という観点から講演する機会を得た。今後、地域に根ざした救急医の活動の一環になりうると考え、報告する。いずれの学校でも45分授業を1コマないし2コマ担当した。1コマ目はキャリア教育という観点から、自己紹介を含めて医師を目指した学生時代から救急医として働く現在までをスライドやビデオを使って紹介した。2コマ目は命の教育として、生きているということを感じてもらおうという視点から簡単なバイタルサインの講義の後、脈拍触知や脈拍数測定、心音聴取などを体験してもらった。また、心エコーなどを供覧し、身体の不思議や健康に興味をもってもらうように心がけた。事後の感想では、教員、生徒のいずれからも好意的な評価を頂いた。今後、これらの講演を通じて、少しでも地域に救急医の素晴らしさを伝えていければと考えている。

Key words：小学生，学校教育，救急医，地域貢献，静岡市

I. はじめに

現在、小学校の段階からキャリア教育が推進されている。また、命の教育が道徳教育などで重視されており、医師や助産師がゲストティーチャーとして講演を行うこともある。

今回、静岡市内の小学校4校において救急医としての経験を活かし、キャリア教育および命の教育という観点から講演する機会を得た。

今後、救急医が心肺蘇生の講習以外にも地域の初等教育に貢献する一つの方策になりうると考えたため、報告する。

II. 小学校におけるキャリア教育と命の教育¹⁾

キャリア教育とは、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てる教育である。1999年の中央教育審議会答申にてキャリア教育という言葉が初めて公的に登場した。答申では、キャリア教育を小学生段階から実施する必要があるとし、家庭や地域と連携して体験的な学習

を重視する必要があると提言された。また、各学校ごとに目的を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要があるとされた。2006年に改定された教育基本法では、第2条において、「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」が規定された。2007年に改正された学校教育法においても、第21条に「職業についての基本的な知識と技能、勤労を重んじる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」が定められた。これらがキャリア教育推進の法的根拠となっている。キャリア教育においては、地域との連携が不可欠とされ、社会人講話や職業人インタビューなどがその一例として挙げられている。

命の教育については、小学校学習指導要領の道徳の項目において言及されており、高学年では、「生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。」と記載されている²⁾。文部科学省

の資料では、道徳教育のモデルケースとして秋田県の事例が取り上げられ、生命の尊重などを主題とした授業において、地域の人材を活用したゲストティーチャーの積極的な活用の推進が記載されている³⁾。命の教育におけるゲストティーチャーに関して、全国の学校や自治体から多数の報告をネット上で見ることができる。その中には、医師や看護師、助産師などの医療従事者だけでなく、妊婦やがん患者といった報告もある⁴⁾。

Ⅲ. 講演の概要

今まで行った講演を表に示す。対象は小学校5-6年生で、学校により1クラス単位であったり、5-6年生全体であった。講演時間は45分授業を1ないし2コマであった(表1)。

表1 講演の概要

学校名	講演日	対象	講演時間
静岡市立安倍口小学校	2014.11.19	6年生1クラス	45分, 2コマ
静岡市立番町小学校	2015.2.4	5-6年生全体	45分, 2コマ
静岡市立清水中河内小学校	2015.2.24	6年生1クラス	45分, 2コマ
静岡市立足久保小学校	2016.1.19	6年生2クラス	45分, 各クラス1コマ
静岡市立安倍口小学校	2016.10.31	6年生1クラス	45分, 2コマ

講演内容は1コマ目にキャリア教育として医師という仕事について説明し、2コマ目に命の教育として自分の身体を知るという講演を行った。

1コマ目のキャリア教育では、スライドを用いて自己紹介を行った。小・中・高校生時代、医学生時代、研修医時代、医師としての現在に区切り、それぞれにテーマを決めた。小・中・高校生時代では、仲間や友達の大切さや医師を目指した理由をテーマとした。医学生時代では、職業教育や専門教育の具体例として医学部での勉強内容を説明した。研修医時代では辛かった思い出を通して仕事を習得する厳しさを伝えた。最後に現在の医師としての仕事内容ややりがい、職業を通じての社会貢献を話して締めくくりとした。スライドにはなるべく写真などの画像を多く掲載し、途中でクイズを入れて双方向性を意識した講演とした。研修医時代の紹介にはTV番組のビデオ映像を使用した。

2コマ目の命の教育では、「自分の身体を知る」をテーマとした。人間は多細胞生物であり、細胞が生きていくためには栄養と酸素を循環させる必要があることを説明した上で、自分の身体の循環を体感してもらうこととした。見る：心エコーの画像供覧、聴く：聴診器での心音聴取と異常心音のCDを聴く、触る：脈拍触知、脈拍数測定を行った。生きていることを肌で感じることを通して、自分や他人、生物の命の尊さを考えてもらうことを目標とした。

Ⅳ. 考 察

学校教育と救急医のつながりとして、学校における心肺蘇生法教育が現在、徐々に広がりつつある。蘇生ガイドライン2015でも小学校におけるBLS (Basic life support) 教育について言及されており、2013年に日本学校保健会が行った調査結果として、児童に対するBLS教育を実施している小学校は2,250校(14.6%)と記載されている⁵⁾。こうした学校での心肺蘇生法教育には救急医も関与している。日本臨床救急医学会は2006年に学校内に心肺蘇生を普及することを目標として学校へのBLS教育導入に関する検討委員会を立ち上げ、提言を行っている⁶⁾。

一方、蘇生法教育以外でも命の教育として救急医が講演する機会も散見される。厚木市立睦合東中学校では、3年生201人を対象に命について考える道徳の授業が実施され、ゲストティーチャーとして近隣病院の救急医が講演を行っている。事前に集計された生徒からの質問に答える形式で進行し、実際の経験談や写真を交えながら、医師の役割や命の大切さについてのエピソードが講演されている⁷⁾。また、前橋赤十字病院高度救命救急センターのブログでは、2010年より複数の小学校で命の特別授業を救急医が行っている様子が掲載されている。救急医は地域に根ざして活動しており、地域貢献の一環として初等教育に参加することは救急医に活動の幅を広げる意味でも有用であると考えられる。

講演後、聴講した小学生から感想文を頂いた。

キャリア教育の講演に対しては、医師という仕事の難しさや大変さに強い印象を受けた生徒が多かった。命の教育では、聴診器などを用いた体験が楽しかったという感想が多かった。スライドで写真やビデオ映像の使用したこと、聴診器や脈拍触知などの体験学習によって子供達が最後まで集中して聴講していたと教員からもおおむね好評であった。

V. 結 語

静岡市内の小学校4校で講演を行った。45分授業を1ないし2コマで、1コマ目に医師という仕事に関するキャリア教育、2コマ目に自分の身体を知ることを通じて命の教育を行った。写真やビデオ映像を使用したこと、聴診器や脈拍触知などの体験学習を用いて工夫したことにより好意的な感想を頂いた。救急医の地域貢献の一環として、初等教育に参加することも有用と考えられた。

本論文の要旨は第18回日本臨床救急医学会総会・学術集会にて発表した。

文 献

- 1) 文部科学省. 小学校キャリア教育の手引き (改訂版). [cited 2016-09-10] available from URL. http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1293933.htm.
- 2) 文部科学省. 一部改正学習指導要領 (平成27年3月告示) 小学校道徳. [cited 2016-09-10] available from URL. http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/08/10/1375633_2.pdf
- 3) 文部科学省. 道徳教育について. [cited 2016-09-10] available from URL. <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/dai2/siryou02.pdf>
- 4) 山下洋. ゲストティーチャーを迎えての「いのち」の授業の実践. 教室の窓. [online]. 東京: 東京書籍. [cited 2016-09-10] available from URL. https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten_download/df8/ehje4333.pdf
- 5) 日本蘇生協議会. 普及・教育のための方策. JRC 蘇生ガイドライン2015. 東京: 医学書院; 2016. P.460-515.
- 6) 学校へのBLS教育導入に関する検討委員会. 心肺蘇生の指導方法, 指導内容に関するコンセンサス2015(ver.160303). [cited 2016-09-10] available from URL. http://jsem.umin.ac.jp/about/school_bls/teaching_consensus2015_v160303.pdf
- 7) 現役医師が“いのち”語る. タウンニュース. [online]. [cited 2016-09-10] available from URL. <http://www.townnews.co.jp/0404/i/2015/01/23/268663.html>

My experience of giving lectures to elementary school students ～ Education about career and life

Takuro Nakada, Arino Yaguchi¹⁾

Critical Care Medical Center, Japanese Red Cross Shizuoka Hospital

1) Department of Critical Care and Emergency Medicine, Tokyo Women's Medical University

Abstract : Elementary schools in the Shizuoka city provide late-grade students with career education as a part of integrated study. In addition, education about life is included in moral learning by means of, for example, lectures by midwives. I recently had opportunities to give lectures about my experience as an emergency physician in the context of education about career and life at four elementary schools. I report on these lectures as I thought such lectures can be a part of community-rooted activities of emergency physicians. I provided one or two units of 45-minute class at each school. In the first unit, which focused on the career education aspect, I introduced myself and my past history as an emergency physician, including medical school days, using slides and videos. In the second unit, which focused on the life education aspect, I gave a brief lecture about vital signs and then let students actually experience some examination techniques such as detection of pulses on palpation, measurement of pulse rates, and listening to the heart sound, with the aim of letting students feel the sense of "living." I also presented some echocardiograms to provoke students' interest to mystery of the human body and health. According to post-lecture surveys, my lectures were well received by both teachers and students. Through such lectures, I hope to communicate the significance of the role of emergency physicians with the community.

Key words : elementary school students, school education, emergency physician, regional contribution, Shizuoka city